

長野県次期総合5か年計画の策定に係る上伊那地域戦略会議 主な意見

令和4年9月21日（水）10:30~12:00

伊那合同庁舎 講堂

【伊那市：白鳥市長】

- ・食べ物や水、エネルギーを地域で賄える安心感が上伊那の強み。移住希望者に対し、リニアや三遠南信自動車道の開通による都市圏とのアクセスの良さと合わせ、地域の魅力としてトータルで発信していくことが必要。
- ・都会に進学した子どもから、リターンしようと思っても地域の就職先が分からないという声を聞く。女性などに対し、情報を正確に届けることが必要。また、地域の魅力を外部だけでなく、ここで生まれ育った子どもたちにも発信していくことがリターンにつながる。
- ・観光は広域観光という視点が大切。MaaS やキャッシュレス決済など、具体的に描いていないと他に後れをとってしまう。
- ・ネット環境の整備は県で旗を振って進めてほしい。山岳観光やキャッシュレス決済、医療など、すべてにつながってくる。

【駒ヶ根市：伊藤市長】

- ・向こう10年を考えたとき、リニア関係が一番大事。長野県駅からの二次交通については、県の役割として、検討ではなく、作る・築くといった力強い表現にしてほしい。
- ・上伊那は外国人観光客が少なく、最も欠けている部分であるが、逆に伸びしろでもある。インバウンドの受け入れについても記載してほしい。
- ・リニアは都道府県間の競争であり、県には情報を検索するときや行政から情報発信するときの大きな枠組み、プラットフォームづくりに重点を置いてほしい。

【辰野町：武居町長】

- ・多くの市町村が子育て支援に力を入れているが、高齢者に対する支援がもっと必要ではないか。

【箕輪町：白鳥町長】

- ・少子化対策の記載が弱いと感じる。県として何ができるのか、どう市町村を応援していくか、記載をお願いしたい。移住だけでは人口減少をカバーできない。
- ・産業振興について、商業に関する記載がない。魅力ある第3次産業が少ないことは地域の課題。工場立地だけでなく、商業立地という考え方があってもいいのではないか。
- ・安心安全の中に流域治水についても記載をお願いしたい。

【飯島町：下平町長】

- ・リニア新時代をどう迎えるかという視点が欠けている。南信はリニア開通により東京までの時間距離が県内でも最も短くなる。この地政学的な利点をどう生かすか、という発想が必要では。
- ・リニア中央新幹線へのアクセスが良好なうえ、都会に比べ土地が広く安い上伊那は、「買い」の場所になる。
- ・労働集約型の工場立地をしても人の奪い合いになるだけ。知識集約型の、研究開発企業の誘致が必要。
- ・リニア長野県駅からの二次交通について、自動運転のEVや飯田線の線路を走るバスなど、リニア時代に合わせた交通システムの整備が必要。
- ・国道153号バイパスの整備はしっかり進めてほしい。

【南箕輪村：藤城村長】

- ・現在、移住については「ひとづくり」に入っているが、「つながりづくり」に入れるのがよいのではないかと。その方が観光・交流・移住のつながりが見えてくる。
- ・県の看護大学の定員増など、ハードルは高いが効果大きい。計画に記載しては。

【中川村：宮下村長】

- ・現在化学肥料の不足が課題となっているが、その一方で、農水省は「みどりの食料システム戦略」として有機農業を進めている。10年先を見据えた持続的な農業のあり方として、有機農業についても考えていく必要がある。

【宮田村：小田切村長】

- ・社会減だけでなく自然減も問題になってきている。子育て支援や結婚支援にも力を入れるべきではないか。
- ・産業振興は三遠南信自動車道を見据えたものに。
- ・医師不足の関係。医師派遣等だけでなく、医学部進学者に対する支援があるといい。